

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう}放送原稿（9月26日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。

朝晩，だいぶ過ごしやすくなってきました。皆様，いかがお過ごしでしょうか。

今回は，10月に入る新しい本の中から5冊を紹介いたします。

はじめに，一般書を2冊ご紹介します。

1冊目にご紹介するのは、『^{みらいせい き}未来世紀 ^{ぐんかんじま}軍艦島』です。軍艦島の写真集で，^{さかい い とおる}酒井透という写真家の著作です。

軍艦島をご存知の方は多いと思います。正式には^{は し ま}端島という名前で，長崎県の長崎湾にあります。^{さいくつ}石炭を採掘するための島でしたが，昭和49年に炭鉱が閉山し，無人島となりました。

ページを開くと，まず海の上に浮かぶ軍艦さながらの島の全景に目を奪われます。そのあと，崩れてゆくのを待つばかりのアパートなどの建物が次々と目に飛び込み，住民が島を去ったあとの廃墟に息をのみます。しかし，よく見ると，所々に人々の暮らしがまだ息づいており，当時のにぎわいが，まるでよみがえってくるかのようにも感じられます。それら一つ一つが私たちに何かを語りかけてくるようで，想像力をかきたてられます。

政府は平成27年の世界文化遺産登録に向けて『明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域』の推薦書をユネスコに提出していますが，この中に軍艦島も含まれています。軍艦島に関する図書は他にも図書館にありますので，興味を持っている方はぜひご覧ください。

2冊目にご紹介する本は、『日本伝承のあそび^{どくほん}読本』です。絵本作家として有名な^{か こ}加古里子さんの著書です。こちらは，1967年から1977年まで刊行されていた本の復刻本です。そのため，とても懐かしい遊びが満載です。花飾りに草笛，紙でっぼう，新聞紙の帽子，あきかん^{たけうま}竹馬，手影絵やあやとりなど，子どもの頃に誰もが親しんだ遊びばかりです。どれもやさしい遊びですので，本を見ながら大人も子どもも一緒になって楽しんでみませんか。

次に，児童書を2冊ご紹介します。

1冊目にご紹介するのは、『ライオンのひみつ』という絵本です。オーストラリアの児童文学作家，マーガレット・ワイルドという人の作品です。

町の図書館の入口に、石でできた立派なライオンの像があるのですが、もちろん動くわけがありません。でもライオンは心を持っていたのです。そして、いつか動けるようになりたい、と願っていました。

ある雪の降る晩のこと、ライオンは、今にも凍えて死んでしまいそうな女の子と赤ちゃんを目にします。なんとかして二人を助けたいとライオンは強く思います。一見こわそうなライオンの優しい心にふれて、心があたたまってお話です。

2冊目にご紹介するのは、今話題の村岡花子^{むらおかはな こ}翻訳の、新装版『赤毛のアン』です。この物語を日本の読者に最初に紹介したのが村岡花子です。1939年、花子が46歳のときにカナダ人の友人からこの本の原作を手渡されました。この本との出会いに運命的なものを感じた花子は、何度も読み返し、戦時中も原書を抱えて防空壕へ逃げ込んだといいます。花子の手によって大切に守られ、翻訳された本がこの世に出たのは、1952年のことでした。花子のことを思いながらページをめくると、また違った側面からお話を楽しむことができるかもしれません。

最後に、郷土に関する本のご紹介です。

みなさんは、笹森儀助^{ささもり ぎすけ}という人の名前を聞いたことがありますか？明治26年に、奄美群島をはじめ沖縄や南西諸島を探検し、『南島探検^{なんとうたんけん}』を記した人です。この、笹森儀助の人物像に迫る『我^{われ}、遠遊^{えんゆう}の志^{こころざし} ありー笹森儀助 風霜録^{ふうそうろく}』（松田修一著）という本を紹介します。

もともと生まれ育った青森県で役人をしていた笹森儀助が、なぜ南島を探検するに至ったのでしょうか。また、探検家としてだけでなく、その後、学校長や市長といった顔も持つ笹森儀助とは一体どんな人物だったのでしょうか。

笹森は南島探検後、トカラ列島から奄美群島までを統治する大島島司^{とう じ}（地方長官）を務めます。島司という役職に就きながら、大変質素な暮らしをしていたといいます。また、常に島民の立場に立つことを忘れなかったといいます。奄美に大変縁^{ゆかり}のある笹森儀助のことがよく理解できる1冊です。

奄美図書館では毎月1日に新しい本が入ります。新しく入った本は、奄美図書館のホームページでも検索できますので、どうぞご利用ください。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。